

第3学年「国語」学習指導案

授業者 小野澤由美子

2月23日（金）3階D室 10:00～10:40 話し合い 10:55～11:45

1 単元名 ことばの奥まで読んでみよう —「おにたのぼうし」—

2 単元について

単元 目標	○叙述に即して登場人物の心情を読みとりながら、人柄や情景を想像しながら読む。 ○主人公の人柄を表す叙述を丁寧に読む。
----------	---

物語の世界に素直に入り込み、登場人物に寄り添って読もうとする子どもたちである。

これまでの物語文の学習では、登場人物のことばや様子を表す文やことばをもとに、気持ちの変化を中心に考えてきた。場面ごとに話の流れを追いつつ読みとっていくことが多かったが、2学期には、物語全体に目を向けるため、場面で区切らずに、叙述をもとに登場人物の性格や人柄を考える学習をしてきた。今回も「おにたってどんなおにだろう?」という問いを考える中で、その証拠の文やことばを見つけ出し、なぜそれが証拠となるのかを考えていく。同じ人柄を表すことばでも違う証拠のことばもあるだろうし、同じ証拠のことばでも違った人柄を考えることもあるだろう。また、その場面だけから証拠を見つけ出そうとする子もいれば、物語を横断的に読んで考えた意見も出てくることだろう。そうした視点の違いを拾い出し、一つひとつ確かめていく学び合いの中で、「あたらしい私」に更新されていくものと考えて今回の授業を組み立てた。

「おにたのぼうし」（あまきみこ作）は、おにたの「やさしさと悲しさ」を軸にストーリーが展開される。心が通じ合わない切なさも心に残る。おにたがもつ女の子を思いやるやさしい思いやわかってもらえるという期待の気持ちは大きく、だからこそ結末のおにたの悲哀は深く、おにたに寄り添って読む子どもたちはどのように受け止めるのか。おにたの心情を読みとり人物像をとらえ、情景を想像しながら、節分の寒い雪の日の静かなこのお話の世界に浸りたい。

3 学習指導計画（7時間目／全9時間）

第一次 語句の意味を確かめ、場面のイメージを共有する。

○ 節分のおにやお話の中のおにについて話し合い、おにのイメージを広げる。

(1) 全文を読み、読後感を話し合い、感じ方の違いを知る。 (1時間)

(2) 語句の意味を調べ、文脈の中での意味をとらえながら読み、物語の流れを読みとる。(3時間)

第二次 人物の性格を表すことばや表現を見つけ、人柄を考える。

(1) 地の文や会話から人柄を表すことばを見つけ、どんな人物かを自分で考える。 (1時間)

(2) 証拠のことばを挙げながら、どんな人物かをみんなで話し合う。 (2時(本時) 2時間)

(3) 心情を読み取り、気持ち表れるように工夫して音読する。 (1時間)

(4) 「今日のなるほど」を読み返し、学習を振り返る。 (1時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

おにたの心情にも触れながら、おにたはどんなおになのかを考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○前時に考えた人柄と証拠のことばを確かめる。 ○3場面、4場面からおにたがどんなおになのかを話し合う。	・ノートに書かれたことを読み直す。 ・どのことばに注目したかを明らかにする。
○今日のなるほどを書く	・具体的な行動や会話に目を向ける。 ・前時の振り返りと比べる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

話し合いの中で学びが深まるように、子どものことばを拾い上げられていたか。